



岐大通 2013

2013 J.League Division2 第3節 東京ヴェルディ 戦

9/1(日) 18:00~

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

FC岐阜大好き通信(岐大通)

9/1号

編集発行:

『岐大通』製作委員会

今号の製作担当:

ささたく & 吉田鑄造

today's guest : 東京ヴェルディ 2012 J2 20勝 6分 1敗 勝ち点 66:7位

1969年に創設された『読売サッカークラブ』は、企業のサッカー部が主流の日本サッカーリーグ(JSL)において異彩を放つ存在だった。JSL優勝5回、天皇杯優勝3回、アジアチャンピオン1回の実績を残し、Jリーグがスタートした際は『ヴェルディ川崎』として2年連続総合優勝。代表選手を数多く擁し、実力・人気ともに間違いなく日本サッカーをリードする存在だった。しかし、その後は徐々に成績は下降線となり、ついに2005シーズンに1位となりJ2降格。2年をJ2で過ごした後にJ1復帰も1年で再降格、以後J2。(吉田鑄造)

8/11のホーム神戸戦では見事に強豪チーム相手に勝利したものの、つづく8/18のホーム水戸戦では1-4と惨敗したFC岐阜。この試合後に、成績不振を理由に行徳浩二監督が解任され、辛島啓珠アシスタントコーチが新監督に就任することとなった。その辛島新監督の初采配となった8/21アウェイ・北九州戦では、中2日という強行日程やコンディション調整不足なども影響してか、監督交代で選手の奮起が期待されたものの0-2で敗戦し、不安が高まる結果となってしまった。

しかし、前節8/25のアウェイ・千葉戦は、試合開始早々に失点したが、3位の千葉相手に粘り強く戦い、後半には#19MF益山のミドルシュートで同点に追いつき、価値あるドローで勝ち点1を積み上げることができた。その前2戦で連敗したため、前回のホーム戦で並んでいた2位との勝ち点差は離されてしまったが、それでも現在の2位・鳥取との勝ち点差は2。勝ち点6差内には、1位・北九州までの5チームがいる。今節だって最下位脱出のチャンスだし、降格圏脱出だって諦める状況には全然なっていない。

さて、その今節の対戦相手は、現在13位の東京ヴェルディ。言わずと知れた“J・オリジナル10”、名門中の名門だが、近年はJ2に定着してしまっているチームだ。とはいえ、その実力は今も折り紙つきだ。現在10得点の#44FW高原直泰、7得点の#17FW常盤聡の両FWは絶対に自由にさせてはならない選手だし、他の選手たちも個人技に優れていて、どこからでも仕掛けてくる怖さを持っている。現在、東京Vは3連敗中と調子を落としているが、しかし通算対戦成績は岐阜の1勝2分7敗、4得点20失点と非常に相性が悪く、前回3/3のアウェイでも0-3と完敗した。東京Vとしては、プレーオフ圏内に返り咲くためにも、ここで“相性の良い”岐阜に勝って調子を取り戻そうと、必死に戦ってくるだろう。しかし、岐阜も昨年のホーム戦では1-0で東京Vに初勝利を挙げている。今年も、前回のリベンジをホーム戦で果たしたいところだ。

また、この試合は元・チームメイトの対決が非常に多くなるだろう。#31GK時久と#1GK佐藤優也は北九州で正GKの座を争った相手だし、#10MF美尾と東京V#19DF森勇介は京都での同僚、同サイドでのマッチアップが目だ。#27FW樋口と#29MF柴原は、先述の#44FW高原とは清水で同僚。若手とベテランの意地がぶつかることだろう。そして何と言っても、#6MF服部にとっては、東京VのFW高原と#11MF西紀寛はジュビロ磐田の黄金期を支えた仲間だし、また東京V自体、07~09年に服部選手が在籍した古巣でもある。服部選手の奮闘に期待したい。

個人技に優れた相手と戦うには、厳しいチェックで相手の個人技を封じ込めることが重要だ。そのための方策を辛島監督がどう打ってくるのか、そしてその采配を選手たちがどこまで再現して、最後まで集中して走り抜くことができるのか、ここが勝負の鍵だろう。お互いに、厳しい状況で「もう負けられない」試合。最後まで「#アキラメナイ」チームに、勝利の女神は微笑むだろう。

そして、この東京V戦の後には、(9/8天皇杯2回戦・岡山戦を挟んで)9/15アウェイ・群馬(現在18位)戦、9/22ホーム・鳥取(現在2位)戦と、本当に「勝たなくてはならない試合」が控えている。今節勝利してチームに勢いをつけるためにも、僕らサポーターの、最後まで「#アキラメナイ」声援が必要だ。(ささたく)

2013J2 順位表 第3節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て) 暫定順位

1	G大阪	67p	+39	71	32	A	H
2	神戸	62p	+24	54	30	A	H
3	長崎	53p	+8	38	30	H	
4	千葉	52p	+18	50	32	H	A
5	徳島	52p	+7	44	37	H	A
6	京都	48p	+16	51	35	H	A
7	札幌	47p	+9	44	35	A	
8	松本	46p	+2	36	34	A	
9	岡山	44p	+6	38	32	H	A
10	水戸	44p	0	38	38	A	H
11	福岡	44p	-2	31	33	A	H
12	山形	43p	+11	56	45	H	
13	東京V	42p	-1	41	42	A	
*14	栃木	40p	+1	39	38	A	
15	横浜FC	35p	-7	29	36	H	
*16	愛媛	32p	-10	30	40	A	
*17	北九州	31p	-9	34	44	H	A
18	群馬	31p	-14	29	43	H	
19	富山	30p	-15	29	44	H	
*20	熊本	29p	-17	30	47	H	A
21	鳥取	27p	-28	28	56	A	
22	岐阜	25p	-37	25	62	---	---

注: *表示は消化試合が1少ない

次回 HomeGame

第3節 ガイナーレ鳥取戦

9/22(日) 13:00

@大垣市浅中公園総合グラウンド陸上競技場

【J加盟後初の大垣開催!】

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23
tel:058-273-8998

【第29節】岐阜 1-4水戸

溜まっていたうっぶんを晴らす勝利を挙げた神戸戦からのホーム連戦。気がつけば夏休み最後のホームゲーム、になるのかな？前節の勝利を生かすためにも、この後の北九州、千葉というかなり厳しいアウェイ連戦を考えると、是が非でも勝ち点を重ねておきたい一戦だったが、そんな願いも希望もむなしく水戸に上位の力を見せつけられた試合になってしまった。

前節と違って、バーやポストに嫌われた部分も確かにある。バージェの日じゃなかった。イングランド辺りでなら「not his day」とか言われるような巡り合わせ。まあ、メモリアルのバーやポストには神戸戦でさんざん世話になったから、その貸しを回収されたと思うしかない（苦笑）。

水戸に与えたPK 2本が痛かったのは事実。とはいえ、いかに、PK職人の時久でも今までの出来が異常。いったい、与PK率（そんな言葉があるのかは知らないが）はどのくらいになるんだろう？一点を争う試合がほとんどのサッカーというゲームで一試合に2本もPKを与えては、勝ち点を取ろうなんぞおこがましい。

正直に言えば、開始早々に3点くらい決められてもおかしくない場面があったし、中盤は水戸の方が優勢だった。スコアこそ、アウェイの水戸戦と同じだったが、なんとなく決められた前回と比べて、しっかりと決められた感が強い。水戸はいいチームだなと思われた。鈴木隆之と橋本がよく効いていたし、そのうえGK本間の存在感がハンパなかった。2点は止められたんじゃないかな？本間じゃなかったら決まっていた……と思うしかない木谷のFK。でも、ああいう正確なキックを見せられると、これからはドリブルとかでどンドンバイタルエリアへ進入すればビッグチャンスになるとわかったのは収穫だ。

後半から出てきた新の退場にはガッカリしたけど、代わり……とっては何だが、スティッペはよさげ。かなり、やれるような気がする。あとはスタメンで出場できるコンディションか？ユーキにも早く復帰してもらって、バージェ、スティッペとのトライアングルが奏でるプレーをこの目で見たいのだが……。それなりの人材は補強できた。今までの岐阜にはなかった状況。まだまだ十分巻き返せる。まずは、直接対決を確実に取ろう！

……と、思った翌日。とうとう、断が下されたか。とにかく、行徳さんには「ありがとう、お疲れさま」としか言いようがない。いろいろ思うことはある。ただ、最後の切り札、というか、伝家の宝刀？を抜いたが、使い方をわかったうえで、やってくれてるんだろうね？なぜ、このタイミングなのか？本当にこの人選でいいのか？抜いた方がいいが、それで我が身を傷つけないように祈る。（ぐん、）

【第30節】北九州 2-0岐阜

う～ん。なんて言ったらいいのかな？水戸戦もたいがいだったけど、「意味わかってんのか？この試合の……」と、暴れられてもしかたないレベル。そんな試合を見せつけられて、いったいどうしたらいいのか途方に暮れた、北九州の夜。

日程の都合上どうしても平日ナイトゲームが組まれるのはしかたがない。ただ、どうしてそれが九州なんだ？と思ったが、幸いこの時季は夏休みが取れる。しかも、18きっぷが使えるシーズン。この恩恵を思いっきり生かすしかない小旅行の予定を組んで出かけたのだが、旅のメインを初日に入れたのが仇になり、翌日からは傷心を慰める旅になってしまったことだよ（苦笑）。足掛け二日。途中ワーブしたけど、約14時間かけて遠征してきた結果がこんな試合とか。どうすりゃいいんだ？自己責任か。

行徳さん解任で、選手の気持ちが高ぶるところか、ダークサイドに入ったんじゃないの？前半スコアレスで終えて後半勝負とか、そんなん語るレベルじゃない。なんで北九州に好き放題やらせてんの？ホームでそれなりに力を見せて勝ったハズだよ？今夜の試合見てたら、今後なんて恐ろしくて語れない。当面のライバル相手にコノ体たらく。神戸に勝った意味がほぼ灰燼に記した連敗。旅を終えて、録画を見たら、時間と映像というフィルターがかかっているおかげか、現地を見た時より少しはやれてたのかな？とも思ってはみたものの、しょせん慰めにもならないよねえ……。首位のチームに8点取られることなんざ屁でもねえや！ゼツタイ勝たなきゃいけない相手だぞ！せめて、見せ場くらいは作ってくれよ？余りにも情けなくて、試合後に「次だ、次っ！」って言っちゃったよ。

この試合の結果は、監督の責任じゃない。月曜に交替を発表して翌々日の水曜日に結果を出せるんなら誰も苦労しないし、結果が出せる選手なら逆に「いままで何をしてたんだ？」ということになる。開幕前に選手を集められなかったことといい、与えられた時間の短さといい、ウチの監督になる人には「お気の毒」としか言いようがない。ただ、それでもリーグ戦は続いていく。相手はどこだろうが勝ちに行くしかない。選手のさらなる奮起を期待する！あと、池元に1ゴール1アシストか……。地元でガンバッてるな。次節以降、熊本・鳥取・群馬と、残留争いのライバルとの試合が残ってる。そこでも思いっきり暴れてくれよな？（ぐん、）

【ユース】目指せ、G1リーグ残留！

我らがFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)は、夏休み期間中は公式試合は有りませんでした。8月末からはG1リーグ戦が再開。昨日8月31日にG1リーグ第11節の帝京大可児高B戦が有りましたが、結果はどうだったんですかね？

そしてこれからは毎週末公式戦が有ります。9月7日(土)に第1節大垣工業戦、9月14日(土)に第1節大垣西戦、9月21日(土)に第1節関商工戦が予定されています。G1リーグ残留に向けて頑張るユースの選手たちを応援してやって下さい。(どこぞのトップチームでも聞いたフレーズだな……苦笑)

FORZA! FC岐阜ユース!! (シュナ)

「いらっしゃいませ」より「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。

休：月曜（定休日が変わりました！）



ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

Living in Woods

本庄工業株式会社

<http://www.honj-woodream.com/>

【第3節】千葉1-岐阜

終盤はずっとリードに合わせてチャントを歌っていたはずなんだが、樋口にボールが渡った瞬間、いや、美尾からパスが出た時から頭の中で「撃て！撃て！！撃て！！！」と叫んでいたような覚えがある。とんでもなく興奮した場面だったんで帰宅してスカパー！の「マッチデイ・Jリーグ」を見たけど、ものの見事にスルー！眠いのをガマンして録画でその場面を見たら、「アレ？それほどでもない...？」という感じで拍子抜けしたが、アレが決まったら最前線の何人かはフェンスから落ちてたような状況だった（笑）。

しかし、今までの人生でそこそこサッカーの試合を見てきて、前後半でガラッと変わる様子をつぶさに見てきたつもりだったけど、この試合はその中でも上位ひとケタ台に入る試合かもしれない。千葉が突き抜けられない理由がわかったような気がしないでもないが、よそ様のことを構ってられる余裕もない。

さて。もう、何回書いたかわからない前半での失点。しかも、開始2分って.....。それから、テクニクに勝る千葉のターンがエンドレス。ようやく、バージェが撃った前半唯一のシュートも相手GKには届かずという、もう、どうしようもない展開。ハーフタイムには「絶望的ですわね」という仲間に「これでも北九州戦よりマシなんだぜ？」と答えざるをえない重い雰囲気。

そして、迎えた後半。見事なパス回しからロングレンジのサイドチェンジでネットを揺らされた時には一瞬天を仰いだんだけどね。「あ、コレは神戸戦と同じ流れか？」と感じたら、案の定千葉が外しまくってくれて、そのうちうちの司のスーパーミドル。ミドルが決まったのはいつ以来だ？メドウでの草津戦、秀人のゴール以来かな？そして、終了間際に樋口に渡った時はサヨナラ・ゴールの予感に飛び上がる準備をしたんだけどね（苦笑）。試合後、仲間と話したんだけど、アレはファーストタッチでニアを狙った方がよかったんじゃないのかな？まあ、勝ちたい気持ちが強くて確実にいったということか。ファーストタッチで撃ったら誰か味方の前に転がってたような気がするけどね。

とはいえ、開始2分のファーストシュートで先制された時はどうなることか、と思ったよ。バージェとスティッペの交代は、樋口の出来が悪くなかっただけにいい采配だった。で、スティッペの意表を突くパス2本で決定機演出。アレはオシャレだった。ここ最近の岐阜ではお目にかかっていないシーン。ただ、FWではない分、ハイボールの競り合いはウマくないかも？早くスタメンで使えるコンディションにしてほしいもんだ。上位相手に勝つチャンスもあったがピンチはそれ以上にあった試合。この勝ち点1を大事にしてほしい。（ぐん、）

まっさきに、僕の頭には「化学反応」という言葉が浮かんだ。後半14分に、#34FWバージェ #36FWスティッペが投入されてからのことだ。試合開始早々の前半2分、セットプレーで足を伸ばした#5山口の爪先に当たったボールは#3時久の伸ばした手も届かず、ゴールネットを揺らした。しかしその後は、岐阜は守備のバランスを崩すことなく、ブロックを作って粘り強く守って、ほぼ相手に決定機を作らせなかった。

しかし一方で、攻撃のリズムはお世辞にもよくなかった。前半に放ったシュートは僅かに#34バージェの1本。パスも動きも攻撃の意識もバラバラで、前節の北九州戦の時よりは、戦う気持ちは見えていたけれど、残念ながら得点の匂いが全くしなかった。後半14分になっても、シュート数は前半の1本のみ。

ところが、スティッペが入ってから、急にチームが変わった（少なくとも、僕にはそう感じた）。パスが繋がるようになった。シュートが狙えるようになった。「おいおい、1人の選手が代わるだけで、こんなにチームのバランスは変わるのか...」と思っていた後半20分、そのスティッペか

らのお洒落な（笑）ヒールパスが右サイドに抜け出した#1染矢に渡り、これをまた染矢が冷静に中盤ガラ空きスペースにボールを送り、そこに走り込んだ#19MF益山が（ちなみに僕は「撃て！」と叫んでいた）一度周囲を確認して、そして思い切って放ったミドルシュートは美しいカーブを描き...ゴール左隅に吸い込まれた。起死回生の同点ゴール！！正にゴラッソ！！いやー、実に良いゴールを（しかも後半、専用スタジアムのフクアリで）目の前で拝ませて貰いました。益山選手には、これを自信にして、どんどんと積極的にいって欲しいものです。

この後は、残り25分でお互いにシュート5本ずつを撃ったのだから一進一退...というか、幾分は（#37FWケンペスの絶不調にも助けられて（苦笑））岐阜の方が押していたのかな？と思う。残念ながら決勝弾は入らなかったけれど、試合終了の笛が鳴った後、約1万人が静まりかえるフクアりに、岐阜サポのコールだけが響く。そして、拍手で選手を迎える岐阜に対して、選手にプーイングを浴びせる千葉のサポーター。そりゃ3位が2位に引き分ければ、そーなると思うけれど、これが「アウェイの醍醐味」（苦笑）。それにしても、千葉とは（順位差の割りには）なんだか相性が良いんだよね。フクアリで1勝1分2敗、通算でも2勝2分4敗。こういうを経験すると、遠征が止められなくなります（苦笑）。

でも、#27樋口は（良い意味で）不満で爆発しそうな表情をしていた。ロスタイムの決勝点を狙える機会を逃したことで、自分に相当腹を立てていたんだろう。それでいい。次こそは自分で満足できるゴールを奪って欲しい。正直、水曜の北九州戦の直後は、今後のチームは一体どうなることかと思った（苦笑）けれど、中3日での千葉戦では見事に立て直してくれたFC岐阜。選手の頑張りにも、辛島新監督の采配にも敬意を表したい。しかし、このドローに満足は禁物。気を引き締めてチームバランスを向上させ、残り試合に臨んでほしい。（ささたく）

監督交代に際して。

行徳さんの解任、非常に残念です...。個人的にはこのタイミングでって思いが強く、代えるなら、もっと早い時期に代えればよかったんじゃないかと。中村やらバージェやら行徳さんの志向に合う選手を可能な範疇で補強して後は任せたと託したんじゃないのかなと。結果はどうあれ、ここまで来たのだったらシーズンを全うしていただきたかった。

ともかくこれで打てる手は全て打った。監督が誰に代わろうとも、プレーするのは選手。選手たちがどう感じ、今後に活かしていくか。監督解任に至った経緯として、自分たちの力不足であることも大いに自覚してほしい。行徳さん、1年半ありがとうございました。日々の練習場も定まらないような環境で、本当に気苦労の絶えない毎日だったと思います。今後どこかでまたご活躍されることを祈念しております。（岐阜の誇り）

行徳さんの解任。有り体に言えば、そういうまことしやかな噂話は以前から聞こえていて、ある人が言うにはターニングポイントは福岡戦だと。それがカンスタでの勝利から1ヶ月何事もなかったのも、今季はこのまま行くもんだとばかり思っていた。タイミングとしては「遅かった.....、かもしれない。」という微妙な時期。とにかく、Jリーグの岐阜としては初めての出来事。まあ、JFLでの経験もあるし、正直戸塚さんの時ほどの衝撃はない。ただ、自分自身としては行徳さんのスタンス、考え方には共感していただけに残念だ。前任者の影響から、かなり鼻屑目に見えていた懸念はなきにしもあらず（苦笑）。

「ボールと笛さえあればいい。」という彼の言葉は忘れられない。とはいえ、やはりそこは曲がりなりにもJリーグ。しかも、降格ありきのリーグ戦で結果を出すのは至難だったと言わざるを得ない選手編成。岐阜を長く見て来た者ほど、

開幕前から編成に不安を感じていたんじゃないかな？はつきり言ってFWがいない。トップがいない。昨季あれだけ梅田にこだわった監督が求めるFW像。それを体現できる選手を準備できなかった。それが序盤の低迷につながったというのは穿ち過ぎか？いや、低迷は今もだが（苦笑）。この岐大通で何度となく言ってきたが「見ていて辛い」「フツウじゃない」サッカーの繰り返し。「これは、監督が望んだ編成です」と言われても、信じられるはずもない。負傷者が出たからとはいえ、開幕前とは別のチームになってしまっている現状がそれを証明しているのは火を見るより明らかだ。最初からこういう編成だったら。だが、これも所詮タラレバ。そういう編成が出来ない理由があったんだろう。外国籍、特にヨーロッパの選手はシーズン途中だったろうし、ユーキも同じ状況だったと思う。何より資金的に大きな変動、あるいは決断があって大幅な補強に踏み切れたと推測できる。相当な額（当クラブ比）を投資したという話もまことしやかに流れてくる。ようやく、フツウのサッカーが出来るようになったのに、行徳さん一人が詰め腹を切らされたような感否めない。それが監督の宿命といえればそれまでだ。ただ、行徳さんはこれからもサッカーに携わっていくだろう。だから、またいつかどこかで会えるに違いない。チャンスがあったら「ありがとうございました」と言いたい。今言えるのはそれだけだ。（ぐん、）正直、「J2で残留争いをしているチームの監督を、『絶対に交替させずに最後まで戦う』という決定を、クラブがしているとは思えない」と覚悟はしていました。実際、今季のJ2でも、現在20位の熊本が7/10に、2位の鳥取が8/11に監督を解任している訳ですから。でも、やっぱりショックでした。FC岐阜にとっては、（08~09年の松永監督以来）久しぶりの「体制2年目の監督」で、チームの上積みを目指してましたから。それに、岐阜の劣悪な練習環境等にも（少なくとも公式の場では）全く文句を言わず、最善の方策を考えてくれてたと思っていました。それに、（もちろん貧乏クラブのウチには厳しい予算の制約がありますが）「フロントは行徳監督に十分な戦力を渡していたか？」にも疑問が残ります。多くの怪我人が出てしまった事もあるでしょうが、開幕時から9人の選手を補強し、今年獲得したばかりの外国人選手を2人も放出した状況は、監督だけの責任とは言えないと思います。また、「監督交代決定のタイミングは本当に今か？」とも思いました。夏の移籍期間は7/19~8/16なので、監督を交代させるならば、新監督の意向を聞きながら移籍期間中に選手の補強をするのが常套手段だと思うのです。行徳監督の解任は8/18 移籍期間が終了した後なので、今後、辛島新監督の希望する選手は（J1所属のU-23など例外はありますが）獲得できないでしょう。この時期の監督交代は、戦術云々よりも「選手の奮起を引き出す」ための定石であり、劇薬でもあります。残留争いを勝ち残るための「背水の陣」です。とすれば、今の僕らにできることは「支え続けること」、最後まで「#アキラメナイ」ことだけだろうと思います。今まで指揮してくれた行徳前監督に心から感謝します。本当にありがとうございました。そして、この状況で後任を引き受けてくれた辛島新監督にも感謝し、今後も最後まで応援していこうと思っています。いろいろ考えるのは、シーズンが終わってからにします。（ささたく）

今季のスタートとなる1月に行われた公開入団記者会見。そこで感じた「どうしてもFWが足りない」という不安。行徳監督は「悲観はしていない」と語っていたけど、昨年の試合における梅田の使われ方を見れば、行徳監督の思い描く『攻撃』は「後ろから丁寧につないでビルドアップしていく」のではなく「トップにパワー系のFWがいて、そこにぶつけてから展開していく」なのかなと思っていたので。もちろん、本当は繋いでビルドアップのサッカーがやりたいのかもしれないけど、そうしたらFC岐阜の選手のほとんどを入替えなければならない（苦笑）。

かくして、攻撃力を期待された“ブラジル人選手の無力感”もあって、開幕直後から攻撃の停滞感は顕著に。攻撃を作れないから、絶えず相手の攻撃を受け続けることになる守備陣。そりゃ勝てないって。つまり、今季の厳しい成績は行徳さん『だけ』の責任ではないということだ。ただ、それでもその戦力でなんとかしなくちゃいけないのが、育成優先でないチームの『監督』の仕事。それが「勝負」の世界だ。相手チームが「チームとしての攻撃」をキチンと作りこんで岐阜に攻め込んでくるのを何度も見せられ（顕著だったのが実は岐阜が勝った長崎戦だったのだけ）、「監督が攻撃を作れないのか、監督の作りたい攻撃を選手が遂行出来ないのか」、どちらにしてもそこに“岐阜の攻撃スタイル”はなかった。

夏になってのユーキ、バージェ、スティッペの加入で攻撃の活性化は顕著に。特にバージェはいかにも行徳さんが欲しいと思ってたんだらうなというタイプのFW（神戸戦ではさっそくそのチカラを発揮してくれた）で、「ようやく行徳監督の攻撃を具現化出来る選手を揃えることが出来たんじゃないか」と期待した。その直後の、水戸戦の敗北を受けての、監督交代。「いまか？いまやることか？」と思ったのは事実。「替えるならもっと前でしょう」という疑問は、今季が終わっても残ることだろう。

辛島新監督は、北信越L・JSC時代の「攻撃のための守備」が印象的。もちろんそれとは戦力も相手関係も置かれている状況も違うけど、繰り返すが「その戦力でなんとかしなくちゃいけない」のが監督の仕事。勝算があってこそ引き受けたのだらうし、FC岐阜がどう変わるか、行徳さんへの感謝の気持ちを持ちつつ、しっかり見届けたい。（吉田鑄造）

2NDサボの我々としてみれば行徳さんが更迭され、辛島さんが引き抜かれることは開幕前から覚悟しておりました。北村隆二をコーチ兼選手として登録したことが決定的。戦術などを語ることは好ましくないのでも多くは記載しません。辛島さんには2008年にも2NDを率いてもらいました（後に国内外でプロ契約を得た選手も有り）昨年度から残ったのは6人（スタメンは2人）3月から始動し全選手がそろったのが4月（例年なら1月末）。8月30日現在、現在東海リーグ戦は5勝5敗の5位（得失点差+6）ですが長崎全社、東京国体、天皇杯岐阜県代表の権利獲得。特徴として「選手を観ること」。各選手が出来ることと出来ないことをしっかり区別し役割を明確にします。選手への指導はまず大まかなことのみ、その練習中で気になった選手に「どうすれば良くなるかを自分で考えさせる」方針。気を抜いたプレーや態度には全力で叱るので気付く選手は必ず伸びていきます。守備の指導はCB出身なのでかなりバランス重視の堅実な内容で好守の切り替えは特に重視されますし、攻め方も豊か。ヒントは“縦”、“スピード”、“背骨”、“ボールの取りどころ”。これは実際に試合でみて理解してください（笑）。育成型と言われてますが実は勝負師。結構イケメン。先日の24日の練習終了後お話をさせてもらいました、要点のみ述べます。

- ・苦しいのは事実だが、監督としてチャンスを貰えたことは光栄に思う。
- ・時間がないのでまだあまり選手を観れていないが、人が多いので特徴のある選手はいるはず、どう活用するか。
- ・教えたことは多いがその中でもこれだけはということだけに絞っている。
- ・アマチュアでもプロでもやるべきことができなければダメ。プロだからより多くを求められていることを自覚してほしい。等々

以上、持ち上げる発言しかしておりませんが（笑）現在最下位ですから少しでも上を向けるようにプラスの発言のみ。（ち～な）